



富士山を望み山中湖畔にある富士演習林の保健休養機能の整備

富士演習林 算用子麻未

富士演習林の目指す新しい保健休養林『Base FACE』とは



富士演習林の特徴

- ①良好な風景の立地環境
- ②都心からのアクセスの良さ
- ③誰にでも歩きやすい平地林



富士演習林全体を保健休養機能に特化した森林のモデル『Base FACE (Forest space for Amenity, Communicational and Educational use)』として整備

↓

『不特定多数の多様な人々が利用する地域における教育、保健休養、地域理解を促進させる空間としての森林基地』つまり、リゾートの特性を活かした多用途型保健休養林

表1 森林の多面的機能

- ①生物多様性保全機能
- ②地球環境保全機能
- ③土砂災害防止保全機能／土壌保全機能
- ④水源涵養機能
- ⑤快適環境形成機能
- ⑥保健・レクリエーション機能
- ⑦文化機能
- ⑧木材生産機能

表2 富士演習林の試験研究課題

1. 環境教育及び森林教育のプログラム開発 自然解説に関する研究
2. 森林のアメニティに関する研究
3. 森林景観研究
4. 森林のレクリエーション機能に関する研究

保健休養林としての森林整備

森林管理

- ・通常は、育林のために実施する下刈や枝打ちを、景観維持のために継続的に実施する。
- 【例1】下刈は、マメザクラやカエデ類を積極的に残すなど、樹種を選択している。
- 【例2】枝打ちは、目線の高さより下にある枝を落としている。(写真1)
- 【例3】高原の森林の代名詞のようなシラカバ林は本来遷移過程に成林するため毎年下刈を実施している。(写真2)
- ・森林ではないが、休養やレクリエーションの場として広く利用されている湖畔広場(写真3)およびグラウンド(写真4)は、夏になると2週間に1回程度の芝の整備を実施する。

林内設備

- ・環境教育プログラムや林内散策のための設備を林内に配置している。
- 【例5】林内の解説版は、景観に配慮し看板ではなくQRコード(写真5)を採用している。
- 【例6】富士演習林の間伐材を利用した『富士山景観観測塔(写真6)』やベンチを設置している。



写真1 枝打ち



写真2 シラカバ林



写真3 湖畔広場



写真4 グラウンド



写真5 QRコード



写真6 富士山景観観測塔

試験地

- ・80年以上の歴史を持つ富士演習林には、木材生産機能のための造林試験地などが今も多く残っている。
- ・保健休養機能について研究するための新たな試験地の設定に向けて古い試験地の整理を進めている。
- 【例4】今年度は富士演習林を代表する寒地性樹種育林試験地(写真7)についてこれまでの調査・研究成果をまとめている。(写真8, 9)

今後の業務展開 …利用者へのインタープリテーション

- ・保健休養機能は人が森林に触れることによって初めて発揮される働きである。
- ・今後は、インタープリターとしての知識や技術を習得し、蓄積していくことも技術職員としての重要な業務となる。
- ・同時にそれが社会貢献や地域連携に繋がることが期待されている。



写真7 寒地性樹種育林試験地



写真8 樹幹解析用円板



写真9 毎木調査

